

いわた

# 文化財だより 第255号

磐田市スポーツ文化観光部文化財課 令和8年6月1日発行

## 目次

- 見付大久保家の資料目録が完成しました ・ P1～2
- 文化財を継承する ・ P3
- 旧赤松家米蔵 緊急修理工事のお知らせ ・ P4
- コラム『獅子ヶ鼻』と『牛ヶ鼻』 藤田圭二 P4

# 見付大久保家の資料目録が 完成しました



見付の惣社、淡海国玉神社の神官を代々勤めてきた大久保家の資料が磐田市に寄贈され、その資料目録『磐田市見付 大久保家資料目録』が完成しました。

大久保家は、戦国時代、徳川家康の家臣として活躍した大久保忠佐を祖とする家柄で、家康が今川氏を滅ぼした後、忠佐が見付惣社の神主を任され、その後大正期に至るまで、大久保家が神主職を継承しました。

大久保家の資料は、すでに寄贈されていた遠州報国隊(※1)に関する資料のほか、戦国時代から昭和時代にわたる文書、書籍、地図・絵図、写真、書跡・絵画、印鑑など1,500件余に上ります。今川義元・氏真の判物や、豊臣秀吉の朱印状など、貴重な中世文書が含まれているほか、江戸時代の神社関係の資料、明治・大正期に活躍した大久保忠尚・春野が学んだ国学関係の資料、維新期の遠州報国隊に関する資料や明治以降の忠尚・春野に関わる書簡などが存在します。

絵画では、大久保家と親戚であった福田半香をはじめ、多くの画人や著名人の作品が残されています。

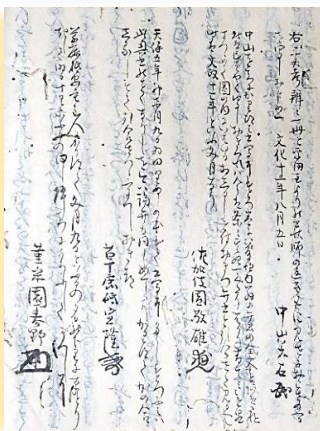
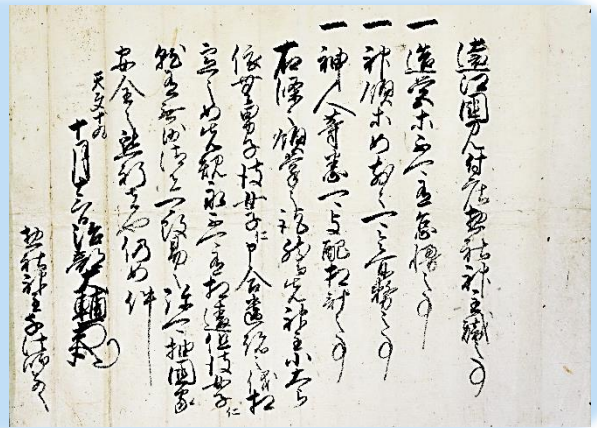
(※1) 戊辰戦争の際に、浜松・磐田の神官や国学者を中心に結成され、討幕軍に従軍した。

# 大久保家資料の一部を紹介します

## 今川義元・氏真の判物

今川義元・氏真の判物(花押が記された文書)は、見付惣社の神主職・社領を安堵(承認)した書類です。忠佐が神主職に就く前には、今川氏により支配されていたことがわかる貴重な資料です。宛名にある「千法師」は、大久保家の祖先の宇津氏の人物と考えられています。

今川義元判物 天文 19 年(1550)→



## 平田国学への傾倒を示す『三大考弁々』

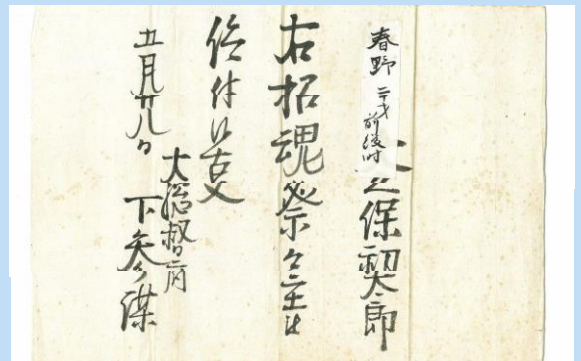
大久保忠尚・春野が倒幕運動に参加するようになった背景には、国学(※2)の影響がありました。特に三河の平田派国学者らと交流があり、大久保家に伝わった平田篤胤(※3)著『三大考弁々』は、彼らが書き継いだものを春野が書写したものです。

(※2) 江戸中期から後期にかけて発達した学問。日本人固有の精神や文化を『古事記』など日本の古典から明らかにしようとするもの。(※3) 江戸時代後期の国学者。国学の研究にはげみ、尊王攘夷思想に影響を与えた。

← 『三大考弁々』の巻末

## 招魂祭祭主の辞令

報国隊が東征軍(明治新政府の討幕軍)に従って江戸に下った慶応4年(1868)、戊辰戦争で亡くなった官軍の兵士たちを慰霊する招魂祭が、6月に江戸城で行われ、祭主を大久保春野が務めました。翌年には招魂社が建てられ、大久保忠尚が祭事主宰に命じられ、奉納相撲などが行われました。この動きが現在の靖国神社へと繋がっていきます。



「招魂祭祭主辞令」明治元年(1868)



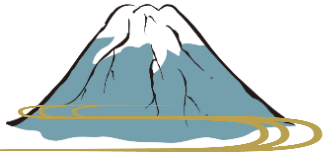
## 福田半香の絵画

見付出身の画家・福田半香の母多美子は、大久保家の出身でした。このため、大久保家には半香の作品が残されており、中でも「秋景山水図」は半香が亡くなるひと月前に描かれた最晩年の作品です。

← 「秋景山水図」元治元年(1864)

目録は市内図書館で  
ご覧いただけます





# 文化財を継承する

## ふじのくに文化財保存・活用推進団体の紹介②

文化財を守り、将来に継承していく上で、地域の方々の協力は不可欠です。静岡県では、令和2年度から文化財の保存・活用に取り組む民間団体を『ふじのくに文化財保存・活用推進団体』として認定しています。このシリーズでは、磐田市内で活躍する11の認定団体をシリーズで紹介します。

今回は、活動が10年を超え、県から表彰された見付の団体2つを取りあげます。

### ■見付宿を考える会（平成8年設立/令和2年度認定・令和3年度表彰）

見付の歴史と文化を学び、まちの良さを次世代に伝え、市内外の人との交流をはかり、笑顔と会話とにぎわいのある町を呼び起こす活動をしています。

地域の歴史を学ぶ「見付宿歴史講座」を開催しているほか、見付の蔵の悉皆調査を実施し、市と協働で報告書を出版しています

毎年、秋におこなう「見付宿たのしい文化展」では、地域の人々や大学生らと共に、見付の本通りを中心にイベントを開催しています。当日は、登録有形文化財の建物の公開や店舗の一部を利用した展示などをおこない、見付宿を盛り上げています。



講座の様子



いこい茶屋



たのしい文化展 HP

### ■見付天神裸祭保存会（平成14年設立/令和2年度認定・令和4年度表彰）



ガイドブック↑

見付天神裸祭  
紹介動画



国指定無形民俗文化財「見付天神裸祭」の保存・継承を目的に、裸祭の実行のほか広報・調査研究等の活動を地域として協働しておこなっています。

祭典の流れやしきたりをまとめたガイドブックを作成し、見付地区と他地域からの見学者に頒布しているほか、小・中学校と連携し、授業の一環として見付天神裸祭の説明会を開催し、伝統の保存継承につとめています。

ふじのくに文化財保存・活用推進団体の制度、市外の認定団体等について、詳しくは右二次元コードからご覧ください。



# 【旧赤松家】米蔵の緊急修理工事を行っています！

旧赤松家記念館は、平成8年に保存修理工事を終え落成し、今年で30年になります。この間、建物、塀などの漆喰の剥がれ、雨漏り、雨樋の傷みなどが生じ、年々小さな修繕を行ってきました。

今回、米蔵の東側に付設されている木造倉庫の外側板材の腐朽・屋根の傾きを確認したため、現在緊急修理工事を実施しています。

来館者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、米蔵以外は通常通り見学いただけます。内蔵ギャラリーでの展示も予定通り開催しておりますので、ぜひお越しください。

【工事の様子】

工事期間：9月末日まで  
工事個所：旧赤松家記念館米蔵



## 職員リレー コラム

### 「獅子ヶ鼻」と「牛ヶ鼻」

藤田 圭二

私は、旧豊岡村の敷地の生まれで、今は廃校となった豊岡東小学校を卒業しています。私が子供のころ、豊岡東小の1年生の春の遠足は、決まって「獅子ヶ鼻」でした。子供の足でしたから、相当な山道を登って行ったような記憶があります。この「獅子ヶ鼻」周辺は、奈良時代から室町時代にかけて大規模な伽藍を擁する寺院が建立され、山岳信仰の拠点として繁栄したと聞いています。また、遠江国分寺とも深いつながりがあったようです。

「獅子ヶ鼻」は、100m余りも切り立った崖の上に、獅子の鼻のように見える岩がそそり立ち、この地区の奇勝として知られています。この岩の上から見下ろす景色は正に絶景で、国府のまちを見守っている守り神のような存在に思えてきます。名前の由来となった「獅子ヶ鼻」は、昔「牛ヶ鼻」と呼ばれていましたが、江戸時代末期の安政東海地震で一部が欠け落ち、現在のようになったようです。私がこのことについて知ったのは、実は最近のことで、ある意味で驚きのことでした。何故かという、「獅子ヶ鼻」を真上に見上げることができる敷地川に「牛ヶ鼻橋」という橋が架かっています。子供の頃から、なぜ「牛ヶ鼻」と言うのか疑問に思っていたのですが、誰に聞くこともなく現在に至っていました。地震によって呼び名を変えたことを知り、60年以上前の思い出と現在とが何故かピタッと一致し、探していたピースがやっと見つかった思いがしています。名前の由来を知り、遙か昔への思いが一層強くなりました。

【牛ヶ鼻橋】



編集 今月号から編集を担当します。  
集 文化財だよりに今後も親しん  
後 でもらえるよう頑張ります。  
記 よろしくお願ひします。



発行：磐田市スポーツ文化観光部  
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 [磐田 文化財だより](#) [検索](#)